

テーマ：貿易統計（2013年9月）
～輸出の改善ペースは鈍化している～

発表日：2013年10月21日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL：03-5221-4526

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
				輸出金額	輸入金額	アメリカ EU アジア			アメリカ EU アジア				
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
12	9月	▲5682	▲9798	▲10.3	4.2	▲11.6	▲3.4	▲20.2	▲10.3	4.7	6.2	▲2.9	▲1.7
	10月	▲5562	▲5163	▲6.5	▲1.5	▲8.5	1.2	▲22.4	▲7.1	▲0.5	▲0.2	6.0	1.7
	11月	▲9570	▲8829	▲4.1	0.9	▲7.7	▲0.6	▲19.8	▲5.3	▲0.5	▲9.4	3.0	0.8
	12月	▲6457	▲7616	▲5.8	1.9	▲11.8	▲7.7	▲16.6	▲9.5	▲0.6	▲3.1	0.9	▲1.1
13	1月	▲16335	▲7255	6.3	7.1	▲1.5	▲1.2	▲14.7	1.3	▲0.7	▲1.6	5.7	▲3.6
	2月	▲7813	▲10601	▲2.9	12.0	▲12.8	▲11.3	▲22.8	▲12.5	0.3	▲8.2	3.6	2.1
	3月	▲3669	▲8854	1.1	5.6	▲7.1	▲9.6	▲12.5	▲6.7	▲4.5	▲10.6	1.8	▲7.5
	4月	▲8848	▲7061	3.8	9.5	▲3.0	0.2	▲11.8	▲2.2	2.5	▲8.5	7.3	3.2
	5月	▲9981	▲8094	10.1	10.1	▲1.2	▲3.4	▲16.4	2.1	▲2.2	▲6.7	▲0.6	▲5.5
	6月	▲1817	▲6604	7.4	11.8	▲5.0	▲6.3	▲9.4	▲4.0	▲5.0	▲2.8	0.2	▲7.5
	7月	▲10295	▲9332	12.2	19.7	1.8	0.4	0.2	▲1.7	2.4	2.1	4.2	1.3
	8月	▲9628	▲8208	14.6	16.0	1.9	0.9	▲1.2	0.4	▲1.5	▲2.2	▲0.6	▲2.5
	9月	▲9321	▲10913	11.5	16.5	▲1.9	▲1.2	▲2.1	▲4.0	▲2.2	▲5.8	13.9	1.4

(出所)財務省「貿易統計」

○9月の貿易赤字（季節調整値）は拡大

財務省より発表された2013年9月の貿易統計では、9,321億円の赤字（輸出：前年比+11.5%、輸入：同+16.5%）となった。輸出が市場予想を下回ったものの、輸入もコンセンサス対比低い伸びに留まったため、貿易赤字額は概ねコンセンサス（9,200億円の赤字）通りの結果となった。

また、季節調整値をみると、貿易収支額は10,913億円の赤字と8月（8,208億円の赤字）から赤字幅が拡大した。内訳をみると、輸出金額が前月比▲0.3%と減少する中、輸入が同+3.8%と増加している。輸出の回復ペースが鈍る中、堅調な内需や円安を背景に輸入金額が増加しており、高水準の貿易赤字が継続している。

○実質輸出の持ち直しペースは緩やかになっている

物価変動の影響を除いた実質輸出（実質化、季節調整は当社）は、前月比▲2.9%と8月から減少した。これで7-9月期の実質輸出は、前期比+0.4%の小幅増加となる。1-3月期（同+2.0%）、4-6月期（同+1.2%）と比較すると伸びが縮小しており、輸出の回復ペースは鈍化している。一方で、好調な内需を背景に7-9月期の実質輸入は堅調に推移したため、7-9月期の外需寄与度（GDPベース）はマイナスとなる可能性が高そうだ。

実質輸出を地域別にみると、アジア向け（前月比▲3.1%）が冴えない。内訳をみると、中国向けには持ち直しの動きがみられるが、ASEAN向けが低調だ。国際金融市場の混乱や景気刺激策の反動などを背景に、ASEAN経済の減速感が強まったことが背景にあると考えられる。これに対して、先進国向け輸出は底堅い推移となっている。米国向け（同▲1.8%）は単月では減少したが、均してみれば緩やかな回復が続いている。品目別に見ると、回復が鮮明になっているのが輸送用機器だ。米国景気の底堅さに加え、円安の数量効果も追い風になっているのだろう。さらにEU向け輸出は同+2.1%と4ヶ月連続の増加となった。機械類の

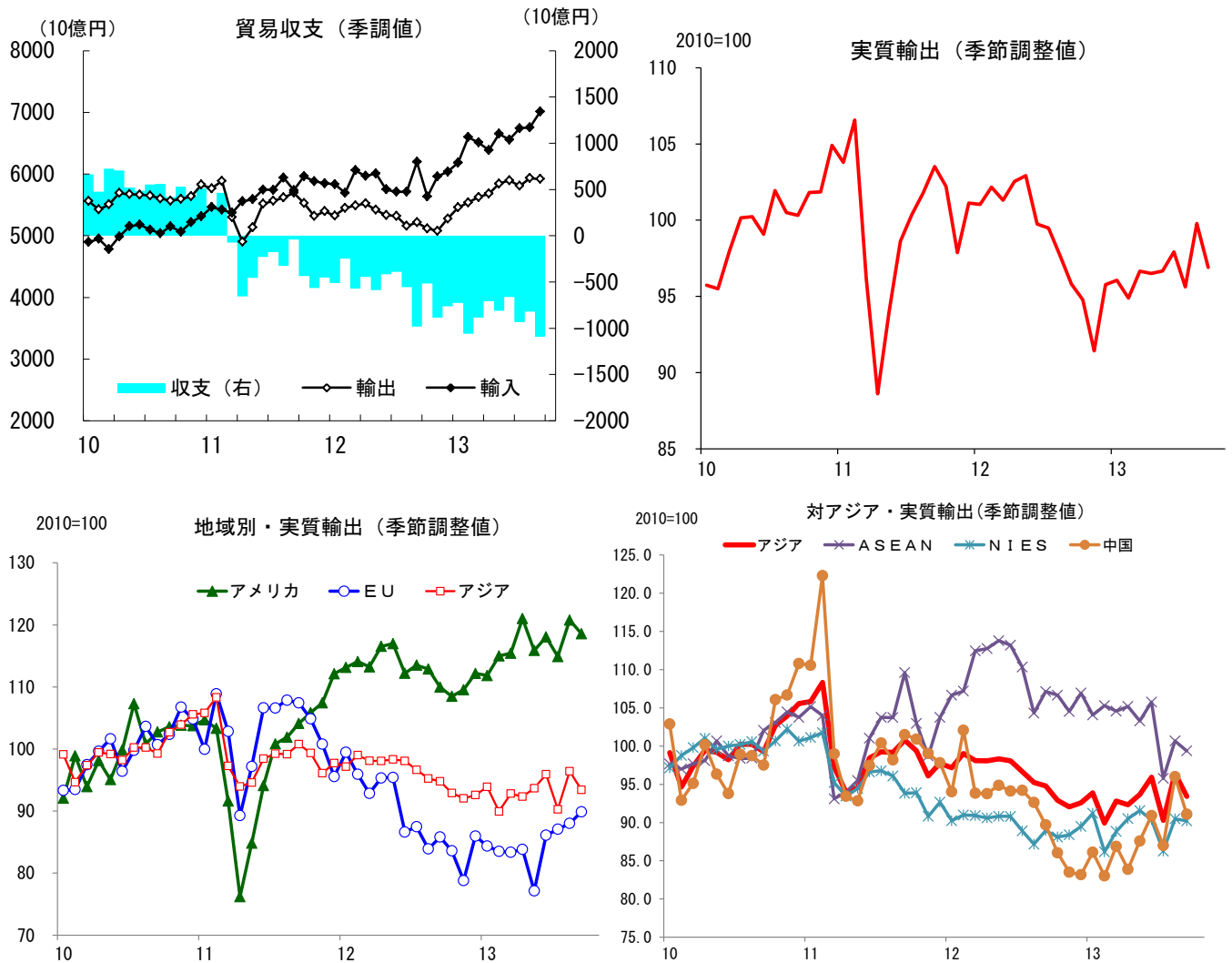
輸出が幅広く改善しており、EU向け輸出の増加を支えている。こちらも、域内経済の持ち直しが支えになっていると考えられる。

以上をまとめると、7-9月期の輸出は引き続き先進国経済の回復や円安効果が支えとなったものの、ASEANを中心にアジア経済の減速感が強まったことで、増勢が鈍化したと評価されよう。

○輸出は再加速へ

このように増勢が鈍化している輸出だが、今後は再び増加ペースを速めていくとみている。アジア新興国経済の再加速を背景に、7-9月期輸出の下押し要因となったアジア向け輸出が持ち直しへ向かうと考えられることがその理由である。さらに、円安の数量効果や底堅く推移する米国・欧州経済も、引き続き輸出の回復を支える可能性が高いだろう。

また、こうした輸出の回復を背景に貿易赤字は縮小へ向かうとみている。目先に関しては、消費税率引き上げを前にした駆け込み需要によって輸入が増加しやすい状況となるため、赤字の目立った縮小は見込みにくい。しかし、こうした動きが一巡した後は、輸出の着実な持ち直しの下で貿易赤字は緩やかな縮小傾向を辿るだろう。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。